

あけまして
おめでとう
ございます
平成三十一年元旦

新年、明けましておめでとうございませう。昨年、皆さまから多くのご支援、ご指導を頂きありがとうございます。

会員各位そして、様々な場面で沢山の力を頂いた、物故者会員及びその遺族の皆さまにも、心から御礼を申し上げます。今年も宜しく願います。

昨年十月の本間吉雄副代表理事の逝去は、大ショックでした。心からの哀悼の意を表します。

今年「元号」が変わる年です。慶応（明治）大正（昭和）平成（？）と、気持ちを新たにして活動に頑張りたいと思いますが、さてどうなることやら。

西暦二千十九年五月一日が改元の元日です。日本の歴史上二百四十八番目の元号が誕生します。

最近の話題から、フリーアナウンサーの生島さんが、ラジオで『アリの駐車場』について昔と変わらなびりたりと話していました。私も経験したことです。ほとんどの車が、歩道に乗り上げて駐車していること、駐車方法は、自分の車のバンパーを使って、車間に上手に入れていくことなど感じるのには、車に関する文化が日本と大きく隔たりがある事です。

さて先行きの動向について、沢山の論評があります。中でも『移民、難民そして人種差別問題』は、大きな課題です。

しかし後期高齢者を過ぎてから、グローバルな課題について、変化が激しくついて行かない現状にあります。



代表理事
熊谷 道夫

年頭のご挨拶

最近手帳に書いた項目を羅列すると

◇移民、難民、壁、国境検問所、ベルリンの壁を思い出す。西の壁は落書きで一杯、東の壁は、ゴミひとつなし。

東西を行き来する際、検問所を通過、この検問所も時間がかかる。

◇人種差別、西欧を旅すると、黒人の多さに驚く。今はわからないが道路の舗装工事などで働く人が多いように記憶している。ジュネーブの靴屋さんに入った時、店員が昼休みなのでお客さんがいるのに店を閉めようとした。

高飛車で強引な態度だったので、驚いたが、権利意識の高さより差別意識を感じた。今はもう無いと思うが、終わりに

『十歳』まで雇用。『高年齢者雇安定法』の改定を検討『新たな成長戦略』、高齢化の進展に伴い、七十歳雇用問題が浮上してきた。

政府の『未来投資会議』が、昨年十一月に本年夏決める『新たな成長戦略』の中間とりまとめを行い発表した。大いなる議論を期待したいが。

十月からの消費税問題も注目の的です。実施まで一年を切り、関心は増税対策のメニューに移っているようです。

プレミアム商品券、キャッシュレス化の施策、住宅、自動車関連減税等々、世代を超えて、痛みを分かち合おうとの消費税の理念は、かすんでしまわないのか、十分監視しよう。

新調査員を迎えて

活動体験のなかから ①会員になったきっかけ、②介護・福祉について思うこと、③訪問調査をして感じたこと、④趣味・特技 についてコメントを寄せていただきました。

活動の更なる充実に向けて



明るく、
優しく、
笑顔で

すみ たに
角谷 順三

① 私を紹介した方は、民生委員と一万人市民委員会のメンバーでした。その方が一万人市民委員会の活動紹介と調査員の引き受け話がきっかけで会員になりました。

② 9年間活動した民生委員を一昨年退任しました。退任後も社会福祉協議会からの要請で配食、買い物、傾聴ボランティアで、高齢者との関わりも多い。グループホームの方々とは老人ホーム合同祭りに度々参加した。認知症患者は年々増加傾向にある。グループホームは県内260件あると聞いている。入所したくとも満室で入所できない方も多し。介護・福祉施設の増大や社会全体で支援の必要性を感じる。

③ グループホームは研修を含め3回訪問した。静かな環境を整える事が認知症の方々の気持ちを落ち着かせると言われている。2025年には高齢者5人に1人が認知症になるのではないかと聞くが認知症グループホームに対応する為のケアのベストは何か考えさせられる。

社会全体が病気を理解して支援の必要性を感じる。グループホームでは住み慣れた地域でいつ迄も安心してゆったり生活を送って頂く為に、薬剤に加えより良いケアをする為の話し合い、職員の方々が明るく、優しく、笑顔で接する事で良い方向になると感じた。

④ ・男の料理、一週間に1回は自分で作る
・時間が空いた時はスポーツジム、はまっているのはラテン系の音楽に合わせ踊るズンバ、これを1時間すれば汗でびしょり、楽しいですよ



福祉の拡充・充実に向けて！
～～ 世代間ギャップを埋める ～～

かし くら
柏 倉 勝

① 施設探しに悩んだ経験があり、今探している方に少しでも協力できればと思い又、仲野さんの勧誘もあり入会を決めました。

② 核家族が確立して、世代間ギャップを大きく感じます。それを埋めるための福祉の拡充・充実が急務だと強く感じます。

③ 基準を満たすだけの狭い場所で、介護活動をしていて快適と感じる環境とは、距離があると感じた。

④ ヘタなマジック



相手の立場に立った介護
～～ その時自分は・・・ ～～

鈴木 瑞枝

① 介護について他人事と考えてきましたがこれから自分もお世話になる時が来ると考え、知っておくことも必要と思ったのがきっかけです。

② お世話される立場に立ってみると、その時自分はどう扱われたいか考えさせられました。

③ 職員の方々が大変な忙しさの中で、あれだけの書類を揃えるのは並々ならぬ努力がいったと思います。その労力を考えると頭が下がる思いです。

④ 読書

下記の項目についてコメントを寄せて
頂きました。

- ① 会員になったきっかけ、
- ② 介護・福祉について思うこと、
- ③ 訪問調査をして感じたこと、
- ④ 趣味・特技



適宜適切、素早い判断

村木 弘 滋

- ① 「無職生活」に少しの変化をと思っていた矢先、当会会員の方から入会の誘いがあり興味を持ちました。
- ② 後期高齢者となった現在、将来の生活等に漠然とした不安に駆られますがそれに対応すべく「介護・福祉」の知識があまりにも乏しいのです。
- ③ 一度だけの見習い訪問調査でしたが、調査に意外と時間を要する事でした。訪問先の対応次第もありますが、当方も実際の訪問調査時には「適切且素早い」判断能力が必要とされると思うと身の引き締まる思いでした。
- ④ 「利府町郷土史会」会員



いきいきと働ける場所に

嶺 岸 とも子

- ① 平成29年3月末まで、でんでん宮城いきいきネットワークの介護部におりました。本間さんの紹介により、介護でお手伝いできることがあればお手伝いしたいと思い会員になりました。
- ② これから入居される方々が、安心して選べる施設等の情報が解りやすいようになれば良いと思います。ヘルパーさん達がいきいきと働ける場は、入居者の方々も安心して生活できると思います。
- ③ 介護の現場で働く職員が、一生懸命に頑張っていました。入居者の方々により添い、コミュニケーションをとり穏やかに生活されていました。
- ④ 人形劇サークルを35年やっています。子供が幼稚園の時から子育て支援もかねて演じてきました。視覚支援学校は30年くらい、幼稚園、児童館、保育所等は依頼があれば、公演をさせていただきます。



介護は『快互』
~~ 自分の言葉で ~~

遠 藤 千 代

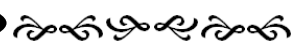
- ① 一万市民委員会の活動は友人を通じて知りました。友人の生き生きした活動に対する姿に感銘を受け、会員になりました。
- ② 私の中での介護は『快互』、介護を受ける側、介護を行う側がお互いに心を通じ合い、そして

穏やかに過ごすことが大切な事と思っています。

- ③ 訪問調査は、介護情報の扉を開く活動として非常に意義のある事と感じています。その介護情報を、自分の言葉でわかりやすく伝えることは、会話力・文章力のない私にとって、とても難しいなと実感しています。
- ④ 25年ほど前に、友人たち数名と始めた「すずめ踊り」が趣味になります。今では、祭連の人数が40人になり、踊り・お囃子を年間通して楽しんでいます。



これからの介護予防の姿



生活支援・介護予防サービスの更なる充実に向けて

すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、高齢者自身が生活支援の担い手として社会的役割を持つことにより、生きがいや介護予防にもつながる

よう高齢者の社会参加を促し、生活支援・介護予防サービスの更なる充実に向けて、地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくり、支え合い助け合い等各種各様の支援活動や地域づくりに取り



ご存知ですか？



あなたの地域の福祉活動

宮城野区

ふれあいデイホーム 「ひなたぼっこ」

※※ 特定非営利活動法人 ※※
でんでん宮城いきいきネットワーク

ふれあいデイホーム「ひなたぼっこ」は、NTTグループのボランティア組織「でんでん宮城いきいきネットワーク」の社会貢献活動の一環として、「仙台市豊齢化社会整備推進基金条例」による仙台市ボランティア団体等先導的事業助成を受け、ひとり暮らしや閉じこもりがちな高齢の方々を対象に、「明るく・楽しく・健やかなふれあいの場」として、平成13年に開設されたデイホームです。

主に仙台市生涯学習支援センター（宮城野区榴岡パルシェイ内）を活動場所にして、毎月第2・第4木曜日の10時30分から14時30分まで、年24回、1回当たりの参加費を800円(昼食、茶菓代)程度とし、運営ボランティア4名(男性1名、女性3名)で活動しています。

現在、利用されているのは14名(青葉区5名、宮城野区4名、太白区3名、泉区2名)、平均年齢84歳(最高齢95



歳)で、皆さん和気藹々、明るく、楽しんでおられます。また、室内での七夕の手づくり、ぬり絵、ハーモニカやフルーツ演奏等を聴く音楽会、仙台市の出前講座聴講や博物館の見学、いきいき講演会聴講、お花見、野草園散策など野外活動も交え、バラエティーに富んだ活動をしています。

訪問当日(11月22日)は、午前はボランティア活動者によるトークマジックショーで笑ったり、びっくりしたり、午後は年賀状作成に取り組み、ゆったりとした時間を共有し、過ごしておられました。また、月2回の出合いが待ち遠しく、楽しみにしていて、もう1回増やして欲しいくらいだとの声も聞かれました。



「でんでん宮城いきいきネットワーク」の地域活動

ふれあいデイホーム「ひなたぼっこ」の運営母体である「でんでん宮城いきいきネットワーク」は、平成11年にNTTグループのボランティア組織として発足し、その後、「自らを高めたい、社会に役立ちたい」という思いを実現する”プラットホーム”として、平成

12年4月に特定非営利活動法人格（NPO法人）を取得し、本格的に「地域社会活動」を展開して、今年で19年目を迎えています。

この間、活動の三本柱に「社会貢献活動」、「生きがい推進活動」、「生活支援活動」を掲げ、福祉の充実と住みやすい街づくりの実現には活動してまいりました。

~~~~~ 社会貢献活動 ~~~~~

◇「杜の会」

昭和62年以降、“無理せず・楽しく・長続き”をモットーに「仙台市五橋公園」とその周辺道路などの除草・清掃活動を継続的に続けており、「仙台まち美化サポーター」に認定されています。

◇「ふれあい電話訪問」

仙台市内に在住する75歳以上のNTT退職者を対象に、「電話訪問」（ごきげんコール）を通して、生活面や健康面及び介護状況などの把握を行うとともに、要望や悩み事に対し、相談や助言などの活動を行っています。また、絵手紙による「ふれあい訪問」も行っています。

◇「いきいきネット講演会」

「自立した老後生活」や「引きこもり防止」などを目的に、親しみやすく、誰にでも気軽に参加できる講演会を年3回定期的に企画・開催しています。また、NTT-OBで運営している各種サークルの発表の場として、年1回「いきいき発表会」を開催しています。

◇「ウエルネットみやぎ」

視覚障がい者支援活動の一環として、一般図書や新聞のコラム欄などをパソコンによる点字翻訳を行い、視覚障がいを持った方々へ無料で提供しているボランティアグループです。

また、「思いやり」のこもった点字名刺(有料)を受注・作成をしています。

◇「一生青春の会」

エコ活動の一環として、NTT労組、NTT 労組退職者の会宮城県支部協議会と連携し、使用済み切手、プルタブ、ペットボトルキャップ、使用済みカードの収集を行っているボランティアグループです。

収集した使用済み切手などは、アジア・アフリカへ医療従事者派遣する活動資金や車椅子およびワクチン購入資金等として活用されています。



「杜の会」



ふれあい電話訪問



「いきいきネット講演」



「一生青春の会」



「ウエルネットみやぎ」

~~~~~ 生きがい推進活動 ~~~~~

◇「男の料理教室」

料理を作る楽しさ、食べる楽しさ、手料理でもてなす喜び、作ることを通して生まれるコミュニケーションを体感しています。

◇「健康教室」

健康教室は、日本武術太極拳宮城県連の斎藤禎子先生よりストレッチ体操や太極拳（初級・中級）を教わっています。

◇「ITサークル」

ITの利活用を通じて、会員相互のノウハウの交流および新技術の習得等により、会員自らのパソコンスキルの向上とともに、他会員への普及にも取り組んでいます。

◇「いきいき麻雀教室」

老若男女、経験を問わず、「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに気軽に、健全な麻雀を楽しんでいます。

◇「絵手紙教室」

絵の上手下手関係なく、自分流のスタイルで、遊び心で楽しむことをモットーに、毎回テーマを変えて開催しています。



いきいき発表会で演舞する健康教室の皆さん



「男の料理教室」



「ITサークル」



絵手紙教室の皆さんの作品



「いきいき麻雀教室」

「でんでん宮城いきいきネットワーク」の詳細については、ホームページをご覧ください。

【ホームページ <http://www.dikiknet.com>】

石巻市「徘徊高齢者のためのSOSネットワーク事業」

～石巻市徘徊模擬訓練について～

石巻市の人口は、平成30年10月末現在144,736人で65歳以上の人口が46,551人、高齢化率は32%です。高齢化が進むと共に、認知症の方も増えている状況にあります。

認知症になってもすべての方が徘徊するわけではありません。認知症の原因は病気により、脳の細胞が壊れ、そのことによって起きる中核症状があり、さらに様々な要因が組み合わさって起きる行動心理症状、興奮・暴力行為等があります。その中でも、大きな課題として、家族だけでは対応できない徘徊があります。

また、認知症は早期発見・早期診断・早期治療が重要と言われています。現在、早期治療などによって進行を遅くしたり、地域住民の声掛けや見守り等の支援を受けて、地域で生活している方も多くいます。徘徊も含め高齢者が困っていることに会ったら、さりげなく声掛けできる地域づくりの必要性が高まっています。

このため、石巻市では「徘徊高齢者のためのSOSネットワーク事業」を平成18年度から行っており、認知症の疑いのある方が登録申請を行うと、市は警察に情報



◆よろず相談会のご案内

平成31年1月から4月までの開催日程は下記のとおりです

☆開催日程

- ・1月22日(火) 相談役 安田廣治司法書士
- ・2月20日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ・3月20日(水) 相談役 安田廣治司法書士
- ・4月16日(火) 相談役 武田貴志弁護士



提供を行っています。併せて登録者には登録証としてワッペンを配付していますが、ワッペンが大きいと貼ると着たがらないという話があり、

平成29年度6月からQRコードのラベルを導入しました。QRコードを読み取ると、直接保護者とメールでやり取りができ、当事者が早く自宅に戻れるお手伝いができる仕組みです。この事業の普及には時間がかかりますが、少しずつ登録者が増加している状況にあります。又、スマホが使いこなせないので、ワッペンでもいいからと言って登録する方もおり相乗効果が出ています。昨年度からQRコードの普及や認知症の方への声掛けや対応方法を理解して頂くことを目的に、認知症のモデル役を一定のエリア内を徘徊して頂き、参加者がグループで検索・声掛け・QRコードを読み取る「徘徊模擬訓練」を、今年度も実施したところ多くの方々の参加を得て成果を上げることが出来ました。

認知症のモデル役に民生委員の協力を頂き、QRコードの名札を掛けてもらい訓練を行っています。捜査活動終了後、モデル役や参加者全体で振り返りを行い、参加者からは、「モデルと言えども、声掛けをする時にためらった」「実際にQRコードを読み取る方法が分かった」等、又、モデル役からは、「同じ目線で声をかけられると良かった」等、気づき等の意見交換が行われ充実した訓練となりました。

今後は、徘徊模擬訓練内容の充実を図りながら継続すると共に、「徘徊」という言葉を使わない流れが出てきているので、ネーミングも検討し、認知症になっても住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域となる仕組みづくりに取り組んでいます。

QRコード型登録



ワッペン型登録証

名前

SOSネットワーク

No.

連絡先: ☎0225-

警察署生活安全課

理事会模様

◆平成30年度 第4回理事会

★平成30年11月14日に第4回理事会がプロミスお客様サービスプラザイベントスペースにおいて開催されました。主な活動報告、審議事項は次のとおり

- 1) 平成30年度各事業項目進捗状況報告並びに提案・審議
- 2) 広報、財政、組織、総務関係について
- 3) 諸会議、研修会などの参加状況と今後の計画について
- 4) その他

(※詳細については事務局備付けの議事録を閲覧願います)



宮城発これからの福祉を考える全国セミナー模様

平成30年11月16日(金)日立システムズホールに於いて、宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議主催で開催されました。

◆第Ⅰ部、基調講演【復興をさらに進めるための地域のつながり支援～宮城の地域づくりは被災者支援から～】の後、◆第Ⅱ部【つながりを広げる協議の場、①地域とのかかわりとお宝さがし、②協議体をワイワイガヤガヤと進めるコツ、③10年後、20年後を見据えた地域づくり】と◆第Ⅲ部【みやぎ発これからの福祉を考える～みんなで地域を輝かせるために】の実践報告がありました。

介護保険法の改正で創設された生活支援コーディネーターと協議体ですがそれぞれに課題や悩みが見えてきました。それぞれの地域の特色を生かして自分たちの暮らしにあったあり方を拾い出し、話し合いだけでなく交じりあって、押し付けではなく地域住民からのボトムアップで育てていく仕組みづくりが大切では?と考えさせられました。

実際に地域の現場で活動されている報告からは並々ならぬ熱意がひしひしと伝わり、住民が住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続ける事が出来る社会が近づいてきている予感を感じたセミナーでした。

2018認知症介護セミナー模様

平成30年10月29日仙台市太白区文化センター 楽楽楽ホールにおいて、認知症介護研究研修センター(仙台・東京・大府)主催で開催されました。

第Ⅰ部では、地域住民への「力」を期待・若年性認知症の人を継続雇用する企業の取り組み・老老介護、認認介護への対応について①「地域包括・共生型ケアパスのススメ」②「企業で働く若年性認知症の人の実態」③「専門職が行う家族支援の手引き」④「認知症ケアの未来を創るレジストリ研究」の講演が行われました。

引き続き、第Ⅱ部では、◇特別講演「認知症疾患別医療とケアを考える～認知症をきたす疾患でケアは異なるのか～」の後、①「A氏の思いをくみ取った支援の重要性」、②「レビー小体型認知症の人のケアについて」③「血管性認知症の人へのケアの考え方とポイント」の3件の実践報告がありました。

対応法として・認知症疾患のある人を色眼鏡で見ないこと、・レッテルを張らないこと・本に書いてある症状の名前を当てはめてはいけないこと・自分で思う認知症のイメージにあてはめてはいけないこと・共通の視点として本人はどのように意識しているのか、といったことをしっかりと探ることが大切であり、そこから対応法が見えてくる場合があるとの報告がありました。

平成30年度評価調査活動始まる!

いよいよ平成30年度「地域密着型サービス外部評価活動」「情報の公表調査」活動がはじまりました。

地域密着型サービス外部評価活動は7月に開始し、7月は3事業所、9月は20事業所、10月は20事業所の評価活動を終えて、12月末(予定を含む)までの進捗率は60%となっています。

尚、今年度の評価活動対象事業所は約120事業所の予定。

また、情報の公表調査活動は9月に開始し、9月は49事業所、10月は90事業所、11月は99事業所、12月は80事業所の評価活動を終えて、12月末(予定を含む)までの進捗率は69.4%となっています。

【お詫び】

Newsletter Miyagi 127号(30/10/1)の3頁に掲載の事業所名、鶴が丘ハートネットは鶴が丘はあとネット、泉の杜診療所はいずみの杜診療所の間違いでした。

謹んでお詫び申し上げます、訂正かた宜しくお願い致します。

青天の霹靂

理事 兼 平 幸 雄

去る十月十八日早朝固定電話のベルがけたたましく鳴り響き、受話器の向こうから「本間さんが……」一瞬耳を疑った。

あまりにも突然の信じられない出来事で言葉もありませんでした。

そんな事があるものかと思いい、本間さんの携帯と固定電話を呼んでみたがどちらも繋がらず、近所に住んでいる人に見に行くと貰い、一日千秋の思いで待つた結果は、間違いない情報であつた欲しいという願いも空しく……

例えば、本間さんが前代表大川さんの助言を得て立ち上げた、NPO法人「でんでん宮城いきいきネットワーク」時代に、いきいきネットメンバーの飲み会の席で、ボケ防止健康寿命の維持向上のための麻雀教室を開設しようと言つた話になり、言い出しへの本間さんが翌日には教室開設のための情報収集に前代表の大川さんや宮内さんの所などを走り回り、一番町の雀荘「藤」に出向き交渉し、見事(?)に、飲まない吸わない賭けのないの三無いをモットーにした「いきいき麻雀教室」を立ち上げたのです。

第一回例会は三卓 平成二十一年十一月七日)から始まり、現在では十卓超えと

なり、教室の運営も軌道に乗ってきたところで、これも一重に本間さんの成せる技(?)だと感動しています。

また、会員の戦況・戦果を記録し、発表するための会報発行と明るく、楽しい教室運営を図るための運営委員会の設立を言い出し、特に会報については、自ら編集校正印刷配達(?)を一人で担い、会員のエッセイを掲載することなど見(戦果)ても、読(エッセイ)んでも楽しい会報にし、この春には 貳百号突破記念誌を発行するまでに至りました。

麻雀をやっている時の刺激や緊張感もさることながら、会報(戦果)を見て今日は頑張るぞとの向上(闘争)心を掻き立てているとともに会員同士のコミュニケーションツールとなつていて、会報は「いきいき麻雀教室」にとつて無くてはならない存在になつている。

本間さん、そのうちにそちらで一緒に飲んで、カラオケで河島英五の「時代おくれ」、イルカの「なごり雪」なんか歌つた後で、麻雀卓を囲もうよ!

本間さん本当にありがとう!
 本間さんとの出会いに感謝を込めて・合掌

【編集後記】

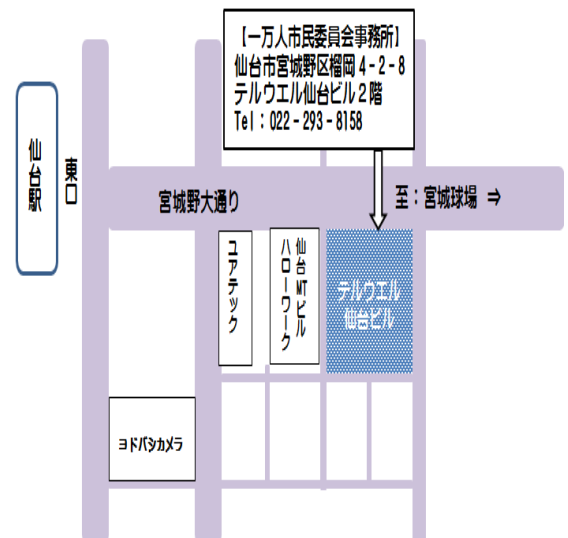
明けましておめでとうございます。

昨年は各地で大きな自然災害が起りましたが、今年は穏やかな一年となりますよう祈るばかりです。

亥年にちなみ当会も現実をしっかり捉えて猪突猛進とダッシュ(時にはブレーキをきかせながら)していきましょう。

新しく編集に工藤俊廣さん、本田裕子さんが加わり、期待感あふれる紙面づくり目指し、取材・情報収集は徹底した現場主義で視野はグローバルに的確・必要な情報を会員の方々に広く知らせ伝えられるよう(もちろんワクワクウキウキの記事も!)編集委員一同取り組んでまいります。

今年も皆様のご協力よろしくお願いいたします。 荒井



特定非営利活動法人
 介護の社会化を進める
 一人市民委員会 一万市民委員会宮城県民の会

〒983-0852
 仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階
 Tel: 022-293-8158 Fax: 022-293-8230
 ホームページ: <http://www.ichimannin.com>
 Email: ichimannin@alpha.ocn.ne.jp

編集委員 荒井 勝子 阿部 洋子 大坪 俊男 兼平 幸雄
 工藤 俊廣 本田 裕子 前田 泰子